

## YAMANASHI

発行/山梨県PTA協議会 〒400-0031 甲府市丸の内三丁目33-7 TEL.055-228-1342

発行人/会長 栢 謙一 編集/山梨県PTA協議会情報委員会 印刷/総合印刷 王文社

PTAは  
家庭・学校・地域のかげ橋

子どもたち一人ひとりが夢や希望を持ち、明るく笑顔で健やかに育っていくことは私たち大人の共通の願いです。しかし、急速な少子化や核家族化、利己主義的な社会風潮により人間関係や地域のつながりが希薄になる中で、不登校やいじめといった青少年をめぐる問題も多く発生しています。

こうした状況を打開し、子どもたちが将来に向けて様々な可能性を導きだしていくためには家庭・学校・地域がこれまで以上に連携し、地域の持つ教育力を高めていくことが必要になります。

平成18年に改正された「教育基本法」の中では、「学校・家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を努めるものとする。」と記されており、家庭・学校・地域の連携や協力の重要性や必要性が求められています。

長引く景気の低迷や少子高齢化などで地域も大きく変化しようとしています。地域の特徴を生かした教育を作り上げていくためにはより多くの機会に子どもたちと関わる大切になってきます。

少し前に報告された「1日に父親が子どもと接する時間の統計」によると、アメリカやスウェーデンは4.6時間、タイでは5.9時間、日本は3.1時間で、他国に比べて短いという結果でした。それぞれ生活スタイルや社会形態の違いがあるので一概に良い悪いを判断することはできません。しかし、時間の長さだけではなく、この限られた時

平成23年度 山梨県PTA協議会  
会長 栢 謙一

間をどれだけ良質で充実したものにしていくのかが重要ではないかと考えます。

授業参観や保護者会でおしゃべりをやめられない親や、自分の孫さえ良ければ他の子に思いのいたらない祖父母。楽しければルールやマナーを平気で無視する若者たち。大人が大人になりきれていなければ、学校でも家庭でも地域でも、子どもを見守り育てる力が低下して本来果たすべき役割が果たせません。

家庭や学校、地域で子どもと触れ合う時間がより良く作用していく力こそが地域の教育力になり地域の力を高めていくのだと思います。

昨年は自然災害等の多い年で、たくさんの被害に心の痛む一年でした。そんな中、直接の親戚知人でなくても思いをはせ、心を寄せあい助け合う日本人の美德を子どもたちは体験しました。今の日本があるのはその人間の美德です。

自分が中心にいる世界から、世界の中にいる自分へと視野を変えていくことで自分自身が見えてきます。今こそ大人が大人になって子どもと関わっていきましょう。

PTAには学校と地域の橋渡し役として、子どもと大人のつなぎ役として、そして私たち大人の成長の場として多くの可能性があるのですから。

平成24年度  
山梨県PTA協議会 定期総会

日時:平成24年6月9日(土)

午後12時30分受付・1時開会

場所:甲斐市 双葉ふれあい文化館 ホール

おしな  
つづ  
く  
広報紙づくり講習会

学校広報紙がより活発な活動となるよう、基礎的な知識・技術等を学ぶ学習会を開催します。

日時:平成24年5月19日(土)

午後2時15分受付 2時30分開会

場所:未定

講師:中村 誠氏 予定(山梨日日新聞社 読者センター)

※広報紙コンクールの審査結果の発表と展示もありますので、新年度の役員、広報部の皆さん是非ご参加下さい。

## 県P・安全会・扶助会事務局が移転します

3月12日(月)より下記へ移転致します。

(電話FAX等の変更はありません)

## 地域指導者講演会

## 単P会長予定者研修会(講演会と分科会)

日時:平成24年3月10日(土)

午後12時30分 受付 1時開会

場所:敷島総合文化会館(甲斐市) 大ホール

講演1 「あなたも今日からスピーチ上手」

福島三千代 先生(話し方教室 speech speech代表)

講演2 「被災地でのボランティア活動から学ぶ」

～いつ起きてもおかしくない東海地震に備えて～

小林奈都夫 氏(県災害ボランティアコーディネーター)

分科会 郡市P単位でPTA活動の課題等について情報交換

## 第34回PTA広報紙コンクール

23年度に発行された学校PTA広報紙、郡市発行の広報紙を募集します。その中から優秀な作品を選び表彰致します。

※年度内発行の学校広報紙を1部ずつ県PTA事務局へお送り下さい。

応募メ切:平成24年3月29日(木)

第37回

母親研修会・子育て講演会が開催されました。

平成23年11月19日(土)
甲斐市敷島総合文化会館

母親委員会 委員長 田中利江(北西中P)

今年も県Pのスローガン『願いはひとつ すこやかな成長』〜つながろう 両手ひろげて〜をテーマに母親研修会・子育て講演会を開催しました。

講師を選ぶにあたり母親委員で十分に討議した結果、韮崎市在住の自然写真家・環境カウンセラーである牛山俊男先生にお願いすることにしました。演題は「宇宙の中の地球 地球の中の私」です。牛山先生ご自身が撮影した作品を、お話を交えてスライドショーとして見せていただくものです。

私たちは最初の一枚でたちまち心を奪われました。甘利山から撮影された甲府盆地の映像です。満天の星空と甲府盆地の夜景が山々と共に一体となって、夜明け前の神秘的な色合いに包まれているのです！ 私たちが暮らす山梨がこんなに見事な景色の中だとは驚きました。

続いて私たちは山梨各地の自然、県内初観測のオーロラ、世界のオーロラ、月や太陽を始めとする宇宙の惑星を見て、最後に甘利山に戻りました。

先生の撮影秘話に感心し、映像の素晴らしさに感動し、自然界のお話に畏敬の念を持ちました。そのような中で生かされている奇跡を実感します。特に今年は大きな災害が続き、なんとなく不安を感じる方も多かったのではないのでしょうか。それが先生の映像によって、自然界の神秘的な美しさから大きな愛をもらって癒された気持ちになりました。また、エンヤの音楽も映像とぴったりで、いつまでも見ていたい気持ちになります。牛山先生もお子さんが在学中はPTA活動に励まれたそうで、今回の講演は先輩として私たち後輩PTAに応援とねぎらいのメッセージをくださっているのが伝わってきました。

そして、講演会終了後は各郡市に分かれて、県精神保健協会の方を始めとする助言者の方の協力を得て話し合いました。

講演会は大好評で、子どもたちに見せたいという意見が多く出ました

し、牛山先生が小学校に招かれている話もありました。その後も非常にゆったりと和やかな雰囲気の中で進みました。

最後になりましたが、開催にあたり大勢の方にご協力を賜りましたことに感謝いたします。ありがとうございました。



委員会報告

総務委員会

委員長 植村武彦(甲運小P)

「新しいPTA会長に高い志を持ってもらうような内容にすべき」「東日本大震災からちょうど1年が経過する『3月10日』の意味を考えるべき」「挨拶をすることに苦手意識を持つ会長予定者が多いので話し方についての講演が良い」・・・先日行われた総務委員会の部会では、このような熱い議論を踏まえて3月10日の単P会長予定者研修会の内容を決定しました。当日は多くの会長予定者の参加をお待ちしております。

企画委員会 委員長 平山裕海(日川小P)

変化の大きい今日、子どもたちが日常の時間をどう過ごしているか、その使い方を保護者はどのように考えているかを中心に調査しました。(小5,390名、中2,673名)

小中学生とも睡眠、食事に関する基本的な生活習慣については、大変良好な状態で、県下全般によい状態であると推察できました。

<小学生の余暇時間>の使い方「1時間以上」の多いものは、テレビ62%、友達との遊び29%、習い事25%、家庭学習16%の順でした。「30分未満」の少ないものは、友達との電話・メール、児童会活動、インターネット、家の手伝い、読書、マンガなどが上げられました。

週3時間以上の習い事は、スポーツ系31%、文化系や学習塾がそれぞれ10%でした。

<中学生の余暇時間>の使い方「1時間以上」の多いものは、テレビ58%部活動41%友達との遊び26%塾・家庭学習20%インターネット20%、メール19%一人で遊んだ17%の順でした。「30分未満」の少ないものは、生徒会活動、友達との電話、習い事、読書、塾、家の手伝い、一人遊び、マンガなどでした。

週3時間以上の習い事は、塾など学校以外の勉強33%、スポーツ系18%との結果が出ました。

<子どもの勉強時間についての保護者の考え>

現状を「少ないと思う」小56%、中73%であったが、「今後増やしたい」小44%、中45%であり、限られた時間の中では仕方がないと考えているか、学校での時数増加を評価しているものと推察できます。

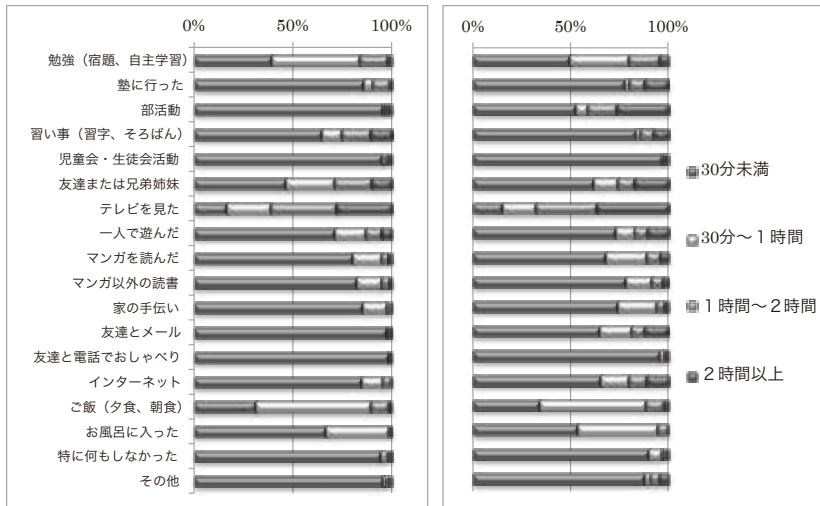
<今後増やしたい余暇時間の使い方についての保護者の考え>

小中共に、保護者は

①「子どもとのコミュニケーション」

②「学校以外での勉強時間」

と考えていることが分かりました。



「余暇時間の使い方」 グラフ 左・小学生

右・中学生

「子どもの時間の使い方」に関するアンケート結果から

アンケートの詳細は県Pホームページに掲載してありますので是非ご覧ください。

# おめでとうございます。日本PTA会長表彰を受賞。



昨年11月22日に東京ホテルニューオータニにて文部大臣表彰及び(社)日本PTA全国協議会会長表彰の授与式が行われ下記の団体2校と個人4名の皆様がめでたく受賞されました。おめでとうございます。

日本PTA会長表彰(団体) 富士吉田市立下吉田第一小学校PTA・山梨市立岩手小学校PTA

日本PTA会長表彰(個人) 長谷川由美(甲府北中P)・宮澤重夫(笛南中P)・中村一郎(加納岩小P)・長谷川一孝(小笠原小P)

敬称略

## 富士吉田市立下吉田第一小学校PTA

下吉田第一小学校は、明治6年10月に開校した富士吉田でもっとも歴史のある小学校です。PTA活動も活発で、戦後、給食開始・充実に向けての活動、交通安全指導の取り組み、その他学校環境整備等、専門部ごと、子どものため学校のため地域のために、保護者・学校・地域・行政の方々のご理解とご協力をいただきながら活動してまいりました。

この度、日本PTA会長表彰受賞の栄誉を賜りました。これも、永年にわたる本校のPTA活動が評価されたことと感謝するとともに、これまで活動を推進してきていただいた歴代PTA役員並びに会員の皆様方、関係者の皆様方のご努力に敬意を表します。

これを機に、保護者・学校・地域の皆様との連携協力をより密にし、一層充実した活動を推進していきたいと思っております。

(PTA会長 渡邊 鉄也)

## 山梨市立岩手小学校PTA

この度は、栄誉ある賞をいただき本当にありがとうございます。これもひとえに、歴代のPTA役員並びに会員の皆様方の活動の成果であるとともに、先生方、また地域住民の皆様のご深いご理解とご協力によるものと深く感謝いたします。

PTA活動については、春・秋の交通安全指導や学校の環境整備作業、授業参観の後には親子で通学路のゴミを拾って帰るクリーンアクションなどの活動を行っています。

また、岩手小学校太鼓の活動では、東山梨音楽発表会や地域の行事など様々な機会に児童がスムーズな演奏を行えるようサポートに力を入れています。

今後も、子どもたちのため、学校・地域の皆様と連携し、PTA活動を一層充実したものにしていければと思っています。

(PTA会長 佐々木 健)



## 関ブロ長野大会 開催

10月21日～22日に、長野市を中心に約2,000人が集まり開催されました。1日目の分科会と石原良純氏の講演があった2日目の全体会に山梨から63名が参加いたしました。

第8分科会 研究テーマ「地域社会の中で果たすべきPTAの役割について」では、県PTA副会長の萩原智子さんが発表しました。



第8分科会 地域連携 発表者 萩原智子(落合小P)

この度の研究発表会では平成22年度に行われた南アルプス市PTA連合会の学習会について報告しました。

「山梨掃除に学ぶ会」の協力を得て、PTA活動としてトイレ掃除を実践している小笠原小学校の活動を見学することで、多くの学校に取り入れてもらいたい、また多くの方にこの活動を知って頂きたいと思われました。だれもが嫌がるトイレ掃除から生き方や人生の歩み方を学んで行こうという精神を多くの人に広めていければ、学校・家庭・地域をつなぐ架け橋の一つになるのではと信じ、学習会で取り上げるようになりました。

トイレ掃除を終えた子どもたちの笑顔はキラキラとしていて、べっぴんさん!女神様そのものでした!感想発表では、「はじめは嫌々だったけれど～最後は便器にへばりついて汚れを落とすことに懸命となった。こんな気持ちは生まれて初めて。」という感動の感想が多く、驚きの連続でした。

今回の学習会を契機として、学校という場において「トイレを磨いて心も磨く」という精神が実践され、この貴重な経験を通して、親子で何かを感じ、感動を共有してもらえたらと願っています。

研究発表にあたり、資料提供等のご協力を頂きました小笠原小学校教頭 長田英和先生・山梨掃除に学ぶ会 清水徹様には心より感謝申し上げます。

## 三行詩推薦作品

### 小学生の部

「あいさつはのをみて しゃべやかに  
ありがとう ごめんない わずれをいけな  
せ電で 家族のさつふかまるよ 二の部屋から会話とぞれす  
停電の中の夜、飯 電気がなくて暗くても  
「ありがとう」 言ってくれて 笑顔ほれる  
みんなの会話はとも明るい  
中道南小 木之瀬 蒼太  
中道南小 石川 一愛  
中道南小 飯寄 礼登

### 中学生の部

「どうせやらなきゃならないとは ばい、と気持ちよく返事して  
言い訳しないで すみね」 とひいちゃんがいも言っていた  
おはよう こんにちは ありがとう みんなをたぐ言葉の輪  
二の部屋に集まって 一緒に話す あふれる笑い  
悲しい時 つらい時 家族の笑顔が私をよそへくれる  
「ありがとう」 家族でかけ合う 思いやり  
白根巨摩中 越村 笑吏  
田富中 若井 萌佳

### 大人の部

「お手伝いをする子供たちに 家族だから当たり前と思わずに  
ありがとう 笑顔であいさつ 感謝の心  
健やかな 子らの寝息が ヒーリングミュージック  
両手広げて 名前を呼ぶと あなたはびたり腕の中  
「その子も 我が子と同じ 育てよう 地域の輪」  
中道南小 渡辺 睦美  
八田小 水越 美紀  
塩山中 内田 智之

「その子も 我が子と同じ 育てよう 地域の輪」  
忍野小 忍野小 入部真由美  
千塚小 千塚小 八坂賀津子



山梨県PTA親子安全会・山梨県PTA扶助会  
会長 天野 一

# 親子安全会だより

## 『絆』

一年の世相を表す毎年恒例の「今年の漢字」。日本漢字能力検定協会が主催する「今年の漢字」は昨年で17回目をむかえた。

昨年は「絆」が選ばれた。「今年の漢字」は葉書やホームページなどの応募から一番多かった漢字一文字が選ばれる。

「絆」とは、断つことのできない人と人の結びつき。「絆」は離れないよう繋ぎとめる網の意味から家族や友人など人と人を離れがたくしている結びつきを言うようになったと意味づけされている。

昨年は未曾有の東日本大震災に原発事故、台風や大雨災害が日本を襲い未だにその被害に苦悩されている人が大勢いる。海外でもニュージーランド地震、タイの洪水など大規模な災害が多発した一年であった。何もかも失ってしまったが、人と人との絆の強さは生きる力となり、支えあいながら必死で復興へと進む被災地の人々に日本中から世界中から「絆」が結ばれ

ている。まさに、「今年の漢字」にふさわしい一文字ではないでしょうか。

「絆」といえば、山梨県PTA親子安全会も会員相互の「絆」で結ばれている。

昭和50年4月1日互助の共済制度方式を採用し、会員相互の助け合い精神の下にPTA親子安全会が発足された。平成20年度からは保険業法の改正に伴い社会通念の見舞金制度(10万円以下)への変更を余儀なくされたが、親子安全会の積立基金により、会員である保護者が死亡した場合の残された児童生徒の厚生援助を目的にPTA扶助会を設立することができた。

設立から36年、親子安全会・扶助会は設立当初の趣旨と目的を尊重しながら、時代と共に変化を続け、更によりよい組織へと変貌を遂げています。今後とも変わらぬご理解ご協力をお願い申し上げます。

### 「親子安全会のありがたさを痛感」

PTA親子安全会審査運営・扶助会認定委員会  
委員長 榛原豊明(中道南小T)

今年度はじめて、親子安全会の審査の仕事に当たらせていただき、17名の委員の方々と9回に及ぶ審査会を実施した。

1回に200件にも及ぶ事故申請が示され、そのたびに公平な支給かどうか、2時間程かけての慎重審議だった。申請される事故の多さに驚かされながらも、この会のPTA会員親子の相互扶助としての大切さを改めて痛感させられた。お亡くなりになり扶助会の対象となられたPTA会員の方の意外な多さにも心が痛んだ。本来ならこの会のやっかいにならないようにと、山梨県下の子もたちや保護者の皆様の健康を願わずにはいられなかった。

今後に向けた、この会としての課題もあり、委員の方々には貴重なご意見をたくさんいただいた。この場を借りてご協力に感謝申し上げます。

見舞金はどれだけ支払われますか?

事由	見舞金区分		見舞金額	
死亡見舞金	児童・生徒	日本スポーツ振興センター適用外	10万円	
	保護者・教職員	疾病・傷害を問わず、いかなる場合も対象となります。	10万円	
傷害見舞金 <small>【(接)骨院での治療は5割給付 上限50,000円!】</small>	児童・生徒	日本スポーツ振興センター適用外	入院	1,500円/1日
			通院	1,000円/1回
	保護者	1.PTA活動中 2.児童・生徒を対象とした社会的行事参加中	入院	3,000円/1日
			通院	1,500円/1回
教職員	1.PTA活動中 2.児童・生徒を対象とした社会的行事参加中 3.教職員勤務中	入院	3,000円/1日	
		通院	1,500円/1回	
後遺障害見舞金	児童・生徒・保護者・教職員	後遺障害見舞金支払区分によって査定された金額で、入・通院傷害見舞金と合算して10万円以内		

詳しくは県P事務局へお電話ください。

# 扶助会だより

## 【会の設立経緯と目的】

山梨県PTA扶助会は、山梨県PTA親子安全会のそれまでの積立基金を移管して平成20年度発足しました。親子安全会の会員である保護者が死亡した場合に、残された児童・生徒の厚生援助を主な目的として設立されました。その他にも親子安全会の会員がPTA活動中の事故により死亡した場合や、保護者・教職員会員が児童・生徒のための活動中の事故により死亡した場合の弔慰見舞金の支払いを行います。

## 【遺児厚生援助金や弔慰見舞金はどんな場合、どれくらい支払われるのですか?】

### 1.遺児に対する厚生援助金(一時金) (2.と重複して支給しない)

児童・生徒の親権者たる会員が死亡した場合、遺児に対する厚生援助金として一律10万円を付与。死亡事由は問わない。

### 2.児童・生徒・保護者・教職員に対する弔慰見舞金

#### (1) PTA活動中の事故による死亡の場合

- ① 児童・生徒(日本スポーツ振興センターの対象とならない場合) \_\_\_\_\_ 100万円
- ② 保護者・教職員 \_\_\_\_\_ 300万円

#### (2) 児童・生徒を対象とした社会的行事参加中の事故による死亡の場合

保護者・教職員 \_\_\_\_\_ 200万円

#### (3) 教職員の勤務中の事故による死亡の場合 \_\_\_\_\_ 100万円



## 編集後記

今年の冬は久しぶりに厳しい寒さの冬となりました。さて、今回の県P情報は掲載内容が盛りだくさんでしたが、情報委員会で良く議論して、まとめることができました。また、三行詩推薦となった子どもの名前を掲載してあげたいと

いう委員会の想いから、個別に承諾を得て掲載させていただきました。

今年度最後の情報誌の発行となりましたが、ご協力いただきました皆様へお礼申し上げます。  
情報委員長 鮫田 光一(中道南小P)